

特別 支援学校

防災意識を醸成する

体験的な学び

子どもたちの学び

- ・体験的な活動や仲間と考える機会を通し、楽しみながら防災について学ぶことができた。
- ・公助の役割を知り、共助の大切さに気付くことができた。

実践① クラス対抗防災〇×クイズ



- ・防災を楽しく学ぶことにより興味・関心を高め、防災意識を醸成する。
- ・防災に係る正しい安全確保の方法を考える。

- ・学級で対話の中で意見をまとめ、解答を考える。
- ・解答の解説を聞くことで、知識を深める。
- ・楽しみながら主体的に学ぶ。

「自分の身の安全を守るための正しい知識をもっと知りたくなった。」
「考える活動を仲間と対話しながら楽しく、意欲的に行っている様子が見られました。」

●指導のポイント

- ・災害発生時の安全確保の方法や避難行動の取り方について、正しい知識を身に付けられるように、視覚的な解説を行いながら、楽しみながら考えられるようにする。

実践② 避難所を想定した体験的な学び



- ・地域との連携・協働により、疑似的体験を通して、実際の災害時に冷静な判断と安全行動ができる。
- ・自助、共助、公助について、考える。

- ・ゲストティーチャーの話を聞き、実際に仲間と協力し、防災グッズを組み立てる。
- ・避難所想定訓練を通して、避難所生活をイメージする。

「地域の人たちと助け合うことが大切であると感じた。」
「いつも食べることができるのは当たり前じゃないと実感しました。」

●指導のポイント

- ・疑似体験を通して、避難所生活をイメージし、自ら感じたことや気付いたこと、学んだことを整理し、実際の災害時に冷静な状況判断や自分の安全を守るための行動ができるようにする。

●学習指導案

学 校 名	北海道雨竜高等養護学校		
対象学年・学級	全学年	対象生徒数	89名
科目／単元名	生活単元学習「1日防災学校」		

1 本時のねらい

- 災害に対する関心を高め、正しい知識・理解を深めるとともに防災意識を高める。
- 訓練や地域との連携・協働を活用した疑似的な体験活動を通して自らの判断で安全に対処できる力を身に付ける。

2 評価の観点

- 防災について、正しい知識・理解を基に、みんなで相談し、意見をまとめて発表することができる。
- 防災グッズの種類を知り、正しく使うことができる。
- 避難所生活におけるマナーを知り、防災食の喫食訓練において正しく行動することができる。

3 防災教育の実践

(1) 防災教育を通して育成したい資質・能力

- ・自分自身の安全を確保するための判断力や方法を身に付けること。
- ・災害時の公的機関による救助・援助を知り、地域住民と協力し合い、助け合いの気持ちを醸成させること。

(2) (1)の内容を踏まえた、本時の授業概要

- ・クラス対抗防災〇×クイズ（全体）：町防災担当との連携
- ・段ボールベッドと防災テントの組み立て（全体）：町防災担当との連携
- ・地震想定避難訓練と講話（全体）：消防との連携 ・避難所を想定した食事訓練（全体）
- ・二次避難場所の確認、事後学習（学年別）：近隣の社会福祉施設との連携

(3) 教科等横断的な視点、各教科等との関連

- ・高等部社会「ア 社会参加ときまり」、「イ 公共施設の役割と制度」、「ウ 我が国の国土の自然環境と国民生活」と関連付けて実施する。
- ・高等部理科「B 地球・自然」と関連付けて実施する。
- ・食事訓練では食育の視点を取り入れて実施する。

(4) 家庭、地域、関係機関との連携

- ・町防災担当、消防及び社会福祉施設と連携し、体験学習を行う。

4 学習の展開

過 程	主な活動
導入 ・クラス対抗防災〇×クイズ	クイズを楽しみながら防災に関心をもち、正しい知識を身に付けよう。 ・全10問のクラス対抗の防災〇×クイズを行う。 ・事前学習の一環として学習実施日の一週間前より校内に展示している掲示物や実物教材（町で実際に備えている防災グッズを借用）の中から問題を出題する。
展開 ・段ボールベッドと防災テントの組み立て ・避難所を想定した避難訓練と講話、避難所を想定した食事訓練 ・学年別の防災学習	地域の連携、協働を通して、疑似的体験をしてみよう。 ・災害時に雨竜町が行っている援助について知る。 ・ゲストティーチャー（町の防災担当者）から段ボールベッドと防災テントの組立て方法について学ぶ。 実際の災害時を想定した訓練を通して、冷静な状況判断や自分の安全を守る方法を実践しよう。 ・地震発生時の身の安全を守る方法を考え、避難方法について学ぶ。 ・学校で備える防災食を知る。 ・避難所生活において、必要なマナーについて考える。 二次避難先を確認するとともに、地域の支援があることを知ろう。 ○1学年：防災グッズの使用体験と防災テントを組み立てる。 ○2学年：学校周辺のハザードマップを調べる。 ○3学年：居住地域や進路先のハザードマップを調べる。 ・近隣の社会福祉施設が二次避難先になっていることを確認する。 ・二次避難先をGoogle mapで調べ、実際の避難経路と施設内を動画視聴し、確認する。 ・社会福祉施設の方からメッセージを聞き、地域の支えがあることに気付く。
まとめ ・事後学習 ・振り返り	1日防災学校で学んだことや気付いたことについて整理し、自分の考えをまとめる。 ・1日を通して体験した自助・共助・公助について整理する。 ・学んだことや気付いたことを記録する。 ・「助けられる人」から「助ける人」になろうとする気持ちを醸成する。

特別 支援学校

1 日防災学校で疑似体験

子どもたちの学び

- ・児童生徒は、津波が起きた場合に、「早く、高く、遠くへ」を意識して避難する必要性について学ぶとともに、避難所等で使用する防災グッズの体験により、防災意識を高めることができた。

実践① 津波の大きさを知る



50cmの津波でも車が簡単に流されてしまうほどの力があることを知り1mではどうなるのかを考える様子

津波の高さについて、手作り教材を用いて子どもたちが実際に触って確認するとともに、アプリを用いたAR（拡張現実）で周囲が水に覆われた状態を疑似体験する。

- ・AR（拡張現実）により、自分の背丈に対する水の高さを確認する。
- ・30cmの津波で人間は歩行困難になることから、津波警報が出た際の取るべき行動について考える。

●指導のポイント

- ・津波や洪水が起こった場合の状況を、視覚的・触覚的にイメージできるようにする。
- ・ARの体験及び津波の持つ力についての学習に基づき、津波が起こる危険性がある場合、命を守るために、「早く、高く、遠くへ」避難行動を取る必要があることを理解させる。

実践② 段ボールベッドを作る



説明を聞き、教職員と児童生徒が協力して組み立てている様子



「思ったより寝心地がいいね」

函館市役所総務部災害対策課職員の指導のもと、段ボールベッドの組み立てを体験する。

- ・児童生徒が4グループに分かれ、段ボールベッドを各グループで1つずつ完成させる。
- ・箱の成形の仕方や組み合わせ方を知り、すべての工程を体験する。
- ・実際に寝心地を体感したり、小学生数人で段ボールベッドに腰かけ、強度を体感する。

●指導のポイント

- ・小学部の児童は教職員と一緒に取り組む。中学部の生徒は自分たちだけで完成させる。
- ・段ボールベッドと床の上で横になることにより、冷気に大きな差があることを体感させる。
- ・仕切りがあることにより、非常時においてもプライベートが守られる重要性について考えさせる。

●学習指導案

学 校 名	北海道函館盲学校（小学部・中学部）		
対象学年・学級	全校児童生徒	対象児童・生徒数	13名
科目／单元名	特別活動		

1 本時のねらい

- 自然災害について理解し、適切な行動のとり方を身に付ける。
- 災害の危険を理解して自らの安全を確保する行動や日常の備えを知る。

2 評価の観点

- 地震、津波警報が出た際の避難行動をとることができる。
- 津波や洪水について知り、疑似体験を通して危険度を知ることができる。
- 段ボールベッド等、避難時に使われる備品の使い方をすることができる。

3 防災教育の実践

(1) 防災教育を通して育成したい資質・能力

- ・ 水害を主とした自然災害の危険性を知り、避難に関する知識や技能を身に付ける。

(2) (1)の内容を踏まえた、本時の授業概要

- ・ 水害に関する訓練、講話、疑似体験と、避難時の備品に関する体験学習を行う。

(3) 教科等横断的な視点、各教科等との関連

- ・ 避難について日常生活の指導と結び付け、机の下の状態やヘルメットの場所を定期的に確認する。
- ・ 小・中学校理科「地球」、「エネルギー」を柱とした内容と関連づける。

(4) 家庭、地域、関係機関との連携

- ・ 函館市役所総務部災害対策課に協力を要請し、地震、津波の基本説明、函館市の過去の水害について講話をしていただく。また、段ボールベッドを借用し、その組み立て方を指導していただく。

4 学習の展開

過 程	主な活動
①避難訓練	<p>* 3、4校時と給食の時間を使い、全校児童生徒の体験行事として行う。</p> <p>①「地震発生→各学級での安全行動→指示が出るまで待機→津波警報による避難」を、教職員の動きも併せて確認しながら実施する。</p>
②外部講師による講話	<p>②函館市役所総務部災害対策課職員から、函館市を主とした津波・洪水被害の講話をしていただく。震度に関する説明及び函館市のハザードマップによる本校の避難経路状況なども説明していただく。</p>
③津波・洪水疑似体験	<p>③手作り教材による津波の高さ体験、AR（拡張現実）アプリによる洪水疑似体験を行う。ARアプリの画像は、タブレット端末からプロジェクターで拡大表示し、全体共有する。</p>
④体験学習	<p>④段ボールベッド作り、手回しラジオ操作、水を入れたペットボトルによる光の拡散効果をそれぞれ体験する。手回しラジオについては、充電、ラジオのチューニングなど、使い方を確認しながら行う。</p>
⑤災害〇×クイズ	<p>⑤水害避難や備蓄に関する2択クイズで、防災知識の整理、確認を行う。</p>
⑥災害給食	<p>⑥体育館で、乾パンを含む災害食やセルフおにぎり体験をメニューとした給食を食べることにより、災害時の食事を体験する。</p>

特別 支援学校

全学部で協働的に取り組む

1日防災学校

子どもたちの学び

- ・緊張感をもった避難訓練と防災クイズや防災グッズづくりなどの楽しく学ぶ防災学習を全学部で併せて実施することで、災害をイメージし、いざというときに備えるための知識が必要であることに気付きました。

実践① 視覚的に災害をイメージし、防災の意識を高める取組



避難訓練後、地震による災害の疑似体験やパワーポイント教材を使って自然災害をより詳しく理解し、自分たちが取るべき行動などを考えることができるようにする。

写真、動画を通して、緊急地震速報が発令されてから実際に地震が発生するまでの時間を体感し、また、震度の違いについて理解し、素早い対応が大切だということがわかりました。

- ・緊急地震速報のメカニズムや十勝地区の災害予想についてクイズを通して理解する。
- ・地震の時に、どのような場所が安全で、どのような避難行動を取ることがよいのかについて考える。

●指導のポイント

- ・実際に地震が起こった場合の状況が、視覚的にイメージできるようにする。
- ・災害の恐怖だけが残らないよう、クイズ形式で楽しく、自らイメージをもてるように工夫する。

実践② 防災に必要なものについて考え、防災グッズを自分で製作する取組



新聞スリッパをお兄さんやお姉さんと一緒に作って楽しかったよ。



スリッパを自分で作って嬉しかったよ。

避難する時に必要な物についてイメージをもち、自分でも簡単に作ることができる防災道具を児童生徒等の力で作成し、実際に使用して実感してみる。

- ・指導者の手を借りず、新聞紙を使って、スリッパとコップを自分で製作する。
- ・製作した防災道具を実際の被害を想定して活用してみる。

●指導のポイント

- ・製作の工程をわかりやすく視覚的教材にまとめ、子ども自らが作り上げる実感をもたせる。
- ・児童生徒等が互いに協力し合い、学校全体で防災に取り組む意識を高めるようにする。

●学習指導案

学 校 名	北海道帯広聾学校		
対象学年・学級	幼稚部5名、小学部6名 中学部3名	対象幼児・ 児童・生徒数	14名
科目／单元名	行事「防災教室」		

1 本時のねらい

- 体験や製作活動を通して、地震災害についての防災意識を高める。(全学部)
- 児童生徒等同士の関わりの中で、互いを意識し問題解決能力を高める。(全学部)

2 評価の観点

- 防災クイズや防災かるたの体験を通して、楽しく防災について考えることができる。(全学年)
- 防災グッズの製作を通して、協働的視点や問題解決に向けて自ら行動を起こすことができる。(全学年)

3 防災教育の実践

(1)防災教育を通して育成したい資質・能力

- ・様々な自然災害等の危険性と、安全で安心な生活を自ら進んで整えるための必要な知識や技能を身に付けること。
- ・災害に対して、一人ではなくみんなで考え行動する協働性、協調性を身に付けること。

(2)(1)の内容を踏まえた、本時の授業概要

- ・自然災害に関わる知識を防災クイズ(小・中学部)、防災かるた(幼稚部)を通して学習する。
- ・全学部で防災グッズの製作を行い、実際に活用して災害時の疑似体験をする。

(3)教科等横断的な視点、各教科等との関連

- ・幼稚部は「健康」領域における災害時の行動、安全に関する指導に位置付け、小・中学部は、総合的な学習の時間に理科や社会科、図工・美術での学習内容を融合させて指導する。

(4)家庭、地域、関係機関との連携

- ・防災マスターの派遣、教職員と保護者が一緒に参加し防災意識を関係者全員で高める。

4 学習の展開

過 程	主な活動
導入 ・避難訓練の振り返り ・災害のイメージをもつ	地震と自然災害について知ろう(小、中学部) ・避難訓練の感想を発表し、適切に避難ができたか自ら考える。 ・緊急地震速報の仕組みについて考え、地震に備えるイメージをもつ。 ・地震発生時のイメージし、課題を探す。 (防災マスター製作のパワーポイント教材を活用する)
展開 ・課題解決に向けた実践	みんなで楽しく防災を知ろう。(全学部) ・防災クイズを通して、災害の危険性と避難について学習する。(小、中学部) ・防災かるた遊びで、楽しく防災を学ぶ。(幼稚部) ・防災グッズ(新聞紙でスリッパ、コップ)製作と実際に活用した災害時の疑似体験する。
まとめ ・学習の振り返り	防災学習の振り返り(各学部) ・本時の活動を振り返り、感想を考える。